

北日本における縄文時代の骨角製銚頭の研究

熊谷 龍之介

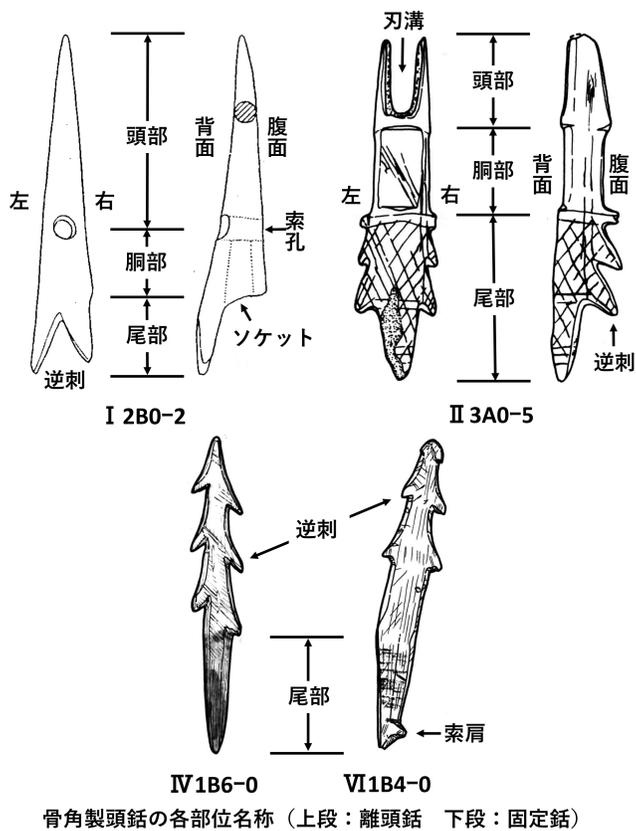
(東北学院大学大学院文学研究科)

問題の所在

渡辺誠氏と金子浩昌氏が分類法を提示してから約半世紀が経過した（渡辺 1973、金子 1986）。この間、資料数の増加に伴い、分類困難な資料の発見や研究者・機関ごとに採用している分類法が異なり、地域間を越えた総合的な研究が行いにくいという問題が生じている。

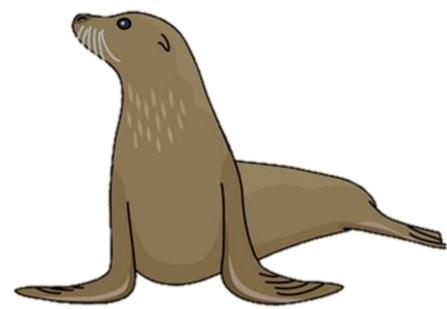
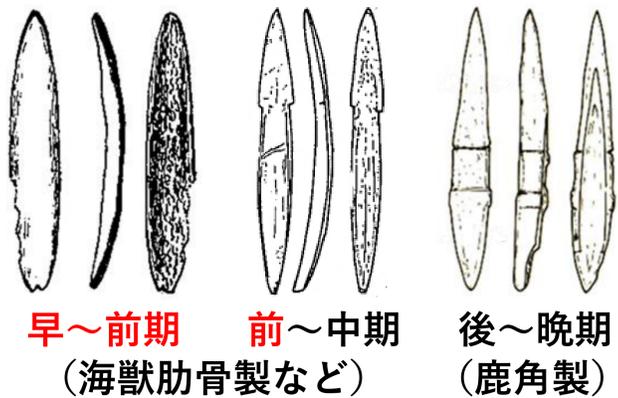
分類法の再構築

本研究では、まず分類基準が明確で、より汎用性が高い分類法の再構築を試み、つぎに北日本における骨角製銚頭の時期的・地域的分布や形態変化について再検討を行う。



	1桁目 銚縄との関係	2桁目 基部の形態	3桁目 刃溝の有無	4桁目 上方の逆刺の数	5桁目 下方の逆刺の数
離頭銚	I 胸部索孔型	●	A 刃溝有	I 1B3-1 索孔・索溝・索肩 上方の逆刺の数	IV 1B6-0 索孔・索溝・索肩 下方の逆刺の数
	II 胸部索溝型	1尖基式			
	III 胸部索肩型	○			
固定銚	IV 無加工型	2閉窩式	B 刃溝無		
	V 尾部索溝型	3開窩式			
	VI 尾部索肩型	※断面図			

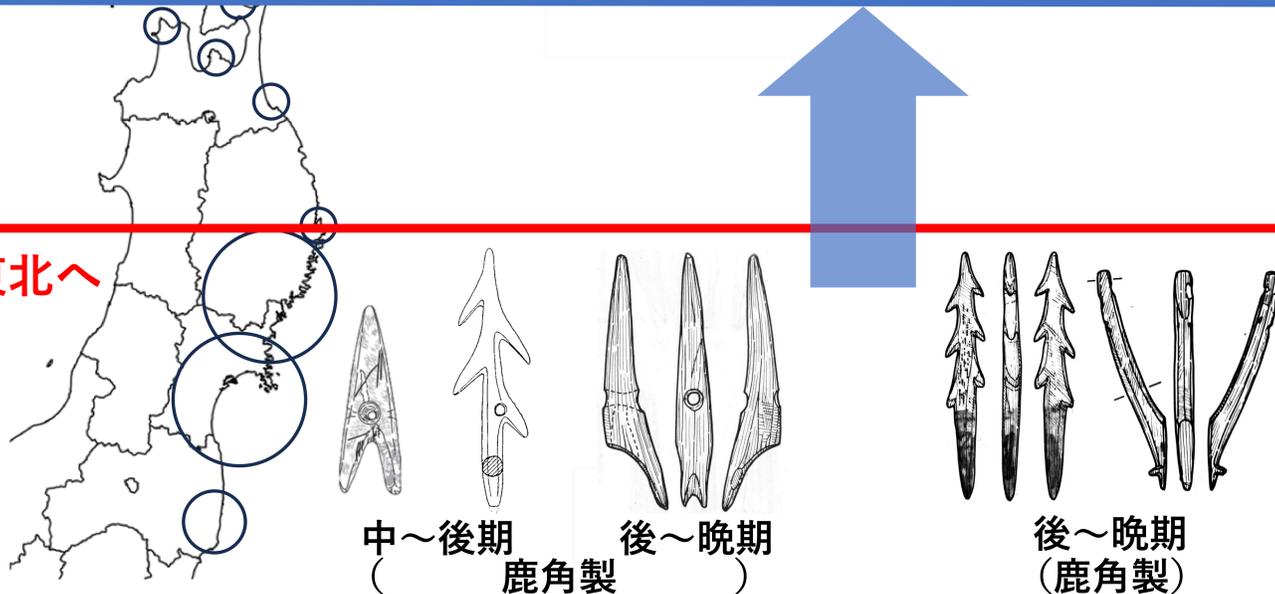
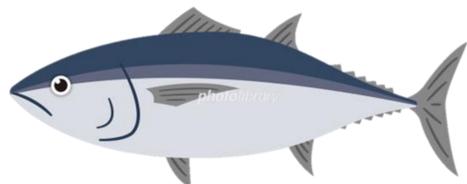
北日本における骨角製銚頭の特徴



「尖基式固定銚、
尖基式離頭銚頭・閉窩式離頭銚頭」
は北海道へ伝播せず

500以上
100～200
50～100
1～50

「開窩式離頭銚頭」は南東北へ
伝播せず



中～後期 (鹿角製) 後～晩期 (鹿角製) 後～晩期 (鹿角製)